

道内
経営 TOPに
会いに行く!

2

人と人のつながりを大事にしなが
ら、顧客の信頼に応える。
数多い同業の中からも、
お客様に選んでもらえる
「質」の提供を目指し続けたい。



交通誘導やイベント、施設と、幅広い警備を通じて街の安心・安全をサポートしている同社。

札幌マラソンや日本ハムファイターズの優勝パレードの警備も担い、

着実に実績を重ねる同社に、フリーアナウンサーの室田智美さんが訪問し、渡邊社長にお話を伺いました。

profile

代表取締役社長 渡邊 克佳

ASEKA(明成香)グループに入社し、現場工事に一環して関わる。
グループ会社の日成産業の常務取締役であったが、
5年前、極真警備工事の2代目社長に指名され、現在は2社の役員を務める。

極真警備工事株式会社

〒001-0021 札幌市北区北21条西3丁目2番37号 極真ビル3階

<http://kyokusin-k.co.jp/>

極真空手との関係は？

設立の際、代表が極真空手の師範だったので「極真空手」という名前に、残念ながら私は空手をやっていませんが(笑)

「警備」と「口」に言っても、いろいろ？

警備のメインは、道路工事の誘導、施設・イベント(花火大会・札幌マラソンなど)、金融関係。探偵なども警備業(4号の資格がないと出来ない。警備にも資格がある)になりますが、探偵はやっていません。警備の中にも資格が必要で、業務をやるための資格と、現場での責任者として必要な資格があります。国道などは交通量も多いので、資格を持った人間が必要で、現在当社には、従業員は社員・隊員(アルバイト)あわせて60名ほどと在籍。20代から75歳程度まで年齢も幅広く、皆がイケイケと働いています。

「どういったきっかけで、入社されるのですか？」

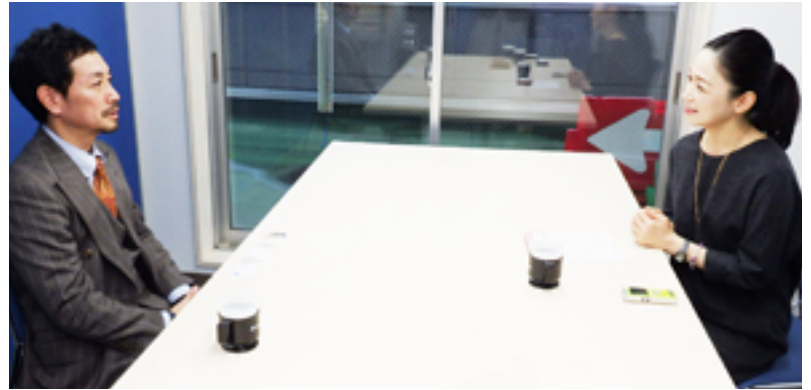
人伝えに聞いた、同業者からの移籍、などが多いですね。「働きやすい」という声も口々に広がっているようです。人それぞれだけれど、私は社員・アルバイト関係なく接しています。バイトとはいえ大切な社員だから、年末年始の決起集会・飲み会など、みんなと会う機会も積極的に設けてやりたいという気持ちです。

「では大切にしていることは、と「言われたら？」

そうですね、人と人のつながりかな。飲む機会を設けると喜んでくれますね。そして、チーム作りを通年通しての現場もありますが、ある程度同じ人が行き来する中で交わることも多いので。だからこそ古い人間・新しい人間の接点を作るようにしています。つまり、みんなが顔を合わせて交流すること。そこから生まれるスタッフ間の信頼関係を大切にしています。また、警備会社の方という、守る・強い・信頼が厚いといったいろいろなイメージがありますが、同時に、警備業は「3K」、人気がない職種としてイメージを持たれていると思うんです。でも、そんなことはないイメージを変えていきたいと思っています。常に時代の中で、「常識は非常識から生まれる」。今、常識だと思っていることも変わってきました。これからも変わっていくはず。うちの会社が、いい意味で「非常識」をポジティブに変えていきたいです。

「常識は非常識から生まれる」とは、たとえは？」

世間一般的にリクルートファッションといえば、今では、紺・グレーの他に「黒」も着ます。けれど昔は黒といえば冠婚葬祭ぐらいでした。そう、非常識が今では常識です。「常識は非常識から」この業界はこうだから、という右に做えて、凝り固まった考えにならず、今までの警備会社と違って、先を見据えてやっていきたいと思っています。



「同業他社も多い中、極真空手仕事らしさは？」

「教育」すること、小さなことの積み重ねを大切に指導していき、人として、大きくならしてもらいたいと思っています。業務の指導、という視点だけでなく、人間としての成長を応援しています。

「隊員さんは、すぐ変わるものですか？」

お客様との接点のなかで、接点が変わる、対応が変わる。どの隊員も変わります！そのために指導する側は、つねに厳しさと柔軟性のバランスをもって、役割分担しながら、職場みんながいい人材を育てていくんだという気持ちで大切にしています。

「極真空手仕事が目指しているところは？」

道内に警備会社は600社ほどあります。協会加盟で400社。他小さいところも合わせれば数え切れません。そんな中、昨年度「警備会社全道売上ランキング」で18位に入りました！周りの警備会社にも注目されています。来年度は10位以内を目指して頑張ります！そのためにもいい人材を育成しながら、サービスの質、同じ単価で仕事を受けるなら、うちは質が違います！とほつきり言える会社でありたいです。

歩道の誘導でも、感じのいい人・悪い人がいる。全員が「あの人がいいな」と思われるほど思いやりを持った接し方を目指したいですね。みんながいつも通りの日常や、楽しくイベントを過ごして終えることができるのも「警備の隊員達のおかげ」と言われることが、やりがい・生きがいです。自分たちが守っているんだ！と実感できますからね。やっぱり「苦勞様です」ありがとうございませう」と言われることが一番嬉しです。セネコさんから、優秀な会社として表彰されると本当に嬉しく、そんな隊員を誇りに思います。頑張りが直接目に見える現場だからこそ、対応が悪ければ悪い噂も広がる。狭い業界なので、しごきを削っていますよ。

「仕事探しに悩む求職者にメッセージを。」

まずは1歩踏み出してみる。踏み出さないと始まらない。厳しい社会で生き詰まって苦しんでいる人もいるかもしれない。けれど自分のペースで、大きくなくてもいい、小さな1歩でも変えていければいい。自分も畑違いの場所から来ました。こればかりどうなるんだろう！という、期待の方が先でした。今後は100名を超える会社に成長させたい。今後も、よりいい隊員を育てていき、社会に送り出していきたいという気持ちです。社長は孤独な部分もあり重責ですが、みんなの笑顔を見ていて、自分の飛躍にもつながっているんだと思えます。時に、本当に仕事しているのかな？と思うほど笑いの絶えない職場。切羽詰まった顔をしても、そこからプラスになるものは生まれませんか。みんなが「会社に来たくなる」そんな職場になっているんだと思えます。みんなスイッチのオンオフがうまくできているのではないですか。年末年始、お盆など、全員が一緒にお休みできるタイミングはありませんが、全員が参加できるように、飲み会も複数回開催し、社長は全日程参加！壁を作らず接しているその姿が同社の活性化につながっているのでしょう。今年度のランキングは間違いなく上位にランクされていることでしょう。

「どんな人に来てほしいですか？」

元気で笑顔いっぱいの人は大歓迎。女性が輝ける場面も警備の世界にはたくさんあります。うちの帯広の所長は女性です。また冬場の野外の仕事は、隊員さんは体調管理が大変。現場では、「何よりも自分の身を守れ！」と言っています。また日頃から現場を見に行き、隊員たちにも声をかけるようにもしています。会議でも現場からの声もとり、隊員が働きやすい環境を整備していきたいと思っています。今後、さらに警備に対する単価をしっかりと上げていけるよう、お客様に合わせた単価を下げない、「うちはこの値段ではできません！」と隊員の安全を守り、質を信頼・評価しながら、私は交渉していきたくと思っています。

時に「本当に仕事しているのか？」と思うほど笑いも絶えない職場。

みんなスイッチのオンオフがうまくできているのでしょうね。

年末年始、お盆など、

全員が一緒にお休みできるタイミングは無いお仕事ながら、

全員が参加できるように、飲み会も複数回開催し、社長は全日程参加！

壁を作らず接しているその姿が

同社の活性化につながっているのでしょう。

今年度のランキングは間違いなく

上位にランクされていることでしょう。

■インタビュー
室田智美(フリーアナウンサー)

隊員さんの体調管理も気遣いながら、常に現場を見に行き、隊員さん達にも日頃から声をかけている代表。お客様の要望に安易に合わせて単価を下げることなく隊員の安全を守り、質を信頼・評価しながら、交渉するその姿からも、隊員さんに対する想いが感じられる機会でした。ありがとうございました。

